

11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
m

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3A
	14
	32-70

4061

西部軍管下一式機動四七耗砲巡回指導實施報告

陸軍技術中尉

岡 埜

眞

国立公文書館	
分類	
配架番号	32-70

軍事秘密

(規則第七十一條適用) 用済後焼却

昭和二十年一月十五日
第一陸軍技術研究所

SHIPPING ADVICE# 10112
SACK # 17
ITEM # 140

配	布	先	部	数
陸軍兵器行政本部	本部長			1
陸軍兵器行政本部	総務部			2
陸軍兵器行政本部	技術部			3
陸軍兵器行政本部	教育部			2
陸軍兵器行政本部	補給部			2
陸軍兵器行政本部	造兵部			1
陸軍兵器行政本部	技術部附設課			1
技 研	所	長		1
	総務科	長		1
	総務科			1
	第二科			10
陸	軍	省		3
参謀	本部			1
教育	總監部			1
大阪	陸軍造兵廠			1
大造	第一製造所			1
名古屋	陸軍造兵廠			1
名造	熱田製造所			1
陸軍	歩兵學校			1
陸軍	兵器學校			1
西部	軍司令部			5
中部	軍司令部			1
東部	軍司令部			1
北部	軍司令部			1
合		計		44

西部軍管下一式機動四十七機砲巡回指導實施報告

第一 目的

西部軍管下独立速射砲大隊ヲ巡回シ一式機動四十七機砲ニシテ技術的診断並ニ取扱上ノ技術的指導ヲ行ヒ以テ踐クシ向上ノ資ナルニ在リ

第二 指導ノ成果

後第一五一〇五部隊(編成後約四ヶ月)ハ幹部ノ一部ヲ陸軍歩兵學校ニ派遣シ技能上ノ一科ニ就テハ既ニ教育セラレアリタルモ他地到着後各種ノ任務ニ忙シキ在リテ取扱教育ヲ徹底スル暇ナカリシ際ナリシヲ以テ今回ノ指導ニヨリテ部隊ノ得タル成果甚大ナリ

西部軍管教育隊ニ於テハ参加セル將校ニ要緊ノ技術的指導ノ重点ヲ向テ且四十七機砲ヲ通シテ大砲ニ関スル科学的知識ノ徹底的理解向上ヲ期シタリ

各隊員通達事項、以極々熱心習得せらるべし、以テ充分ナル自信ヲ以テ本砲ノ取扱ヲナシ得ルモノト認メ、戦力向上ニ資スルトヨク大ナルモノナリタルヲ信ス

一 新編部隊ニ一部隊部ハ、英砲学校ニ於テ教育ヲ受ケタルモ、短期間ノ教育ナリシト探知教育ナリシヲ以テ、探知造機能ニ因リテ、充分ナル知識ヲ得、整備ノ重要性ヨリスレバ、英砲学校ニ於ケル探知整備ニ関スル充分ナル教育ヲ必要ナリト認ム

二 兵隊同隊員同書類ハ、持テ新編部隊ニ少ク於テ、熱心ナル指導ニ因テ、同書類少ク為充分ナル成果ヲ期セラレハ、約々ナリ兵器整備ノ自治ヲ部隊ニ要求スルコト切ナル今日、兵器同隊員同書類ノ確保ナル配布ハ、急務ナリト認ム

三 演習用彈藥少ク、為部隊ハ射撃ノ経験少ク、英砲ニ際シテ、英砲ニ發射上ノ欠陥ヲ生スル懸念ナシトセバ、速ニ演習用彈藥ノ交付ヲ必要ナリト認ム

四 砲製造上ノ検査上ノ不備ヨリ来ル砲ノ故障多ク、部隊ハ之ガ整備ニ非常ナル苦心ヲナシアリ、次第ト兵ニ致リテ低下セシムルコト大ナリト認ム之ガ対策ハ、嚴シク要ス

五 砲補給上ノ不注意ヨリ来ル砲ノ故障及ヒ部品予備品ノ不足著シク之ガ戦力ヲ低下セシムルコト亦大ナリ、故テ部品予備品ノ整備ハ、重要ナリト認ム

第四 教育實施ノ概要

一 教育ハ、西部隊ノ計画セル口徑ニ基キ、各部隊三日間ニ亘リ、花ノ如ク實施セリ

第一日 火花及彈藥ノ概説取扱上ノ一般の注意事項、内鎖機ノ分解結合調整故障排除及機能説明

第二日 發射機高低方向照準機及推進機ノ分解結合調整

設備排除及機能説明

第三〇号照準具ノ調整緩衝機ノ分解結合調整点検及調整修理
總括的要領説明懇談

尚後部隊ニ於テハ任務ノ実情ニツキテ全火砲ニツキテ教育
ル能ハズ岩川ニ於テニ門ニツキテ集合教育ヲ実施セリ
ニ出席人員

以於能水(西部軍教育隊) 将校以下二十名
以於岩川(後第一五〇五部隊)

- 久留米師団兵器部 将校 一名
- 後兵団兵器部 将校 一名
- 後第一五〇二部隊 将校以下三名
- 後第一五〇三部隊 将校以下三名
- 後第一五〇四部隊 将校以下三名
- 後第一五〇五部隊 将校以下三名

其部隊交付回書

一式機動四十七花砲説明書
一式機動四十七花砲調整上ノ参考

説明用要因在ノ如シ

一式機動四十七花砲一式徹甲弾ノ葉筒

- 目 九八式榴弾ノ葉筒
- 目 用 鏡 機
- 目 表 発 機
- 目 駆 退 後 生 機
- 目 緩 衝 機

米英軍機甲一覽表
米軍政要ノ要角

五美砲要領

ノ一門ニ就テ學習員ヲシテ分解結合ヲ実施セシメ、構造

機能ヲ説明シ調整要領故障排除ノ要領ヲ指導ス
2. 修理要領ニ関シテハ概要ヲ全般ニ説明シ細部ノ事項ニ関
シテハ技術部下士官又ハ技術作業者ニ対シテ指導シ修理
ヲ実施セシメタリ
3. 懇談ニ於テハ火炮群集ニ関スル科学知識ヲ向上セシムル
如ク実施セリ

第五 火炮調整成績

一 部隊保管火炮番号附表第一ノ如シ
二 部隊保管火炮ノ故障附表第二ノ如シ
三 部品予備品ノ不定状況附表第三ノ如シ
四 部隊ノ制式改正ニ関スル意見表ノ如シ
五 独立照準線式ニ関シアルヲ利トス
理由 照準ヲナスニ距離分画装定後改メテ照準ヲ精密ニナ
スヲ要シ且續当ノ在リハ発射後過激トナリカトシ

一 照準具北窓下面ノ接触一時高偏スルヲラシ

2. 各部品ハ望遠鏡ニシテ精密ナルヲ要ス

理由 部品中薄弱ニシテ折損変形等ナシ且適合セザルモノ
アリ

3. 各接統部ハ嵌合装置ニシアルヲ利トス

理由 壊スナルハ分解結合ニ容易且時間ヲ多ク要ス

4. 発光伝導装置ハ接統桿ニ依ルヲ推奨トス

理由 伝導索ハ常時使用スルニ当リ延ビテ要発適當ナラザ
リシコトアリ且切損変形等ニ依リ作用不能ナルコト
アリ

5. カムニ依ル照準俯仰ヲ齒弧式トセルヲ有利ナリ

理由 砲手ノ姿勢動作等ニ依リ照準線ヲ変動セシムルコト

大ナルヲ以テカムニ代ルニ齒弧式ヲ可トス

五 銃第一五五部ニ於テハ一式機動四十七口径砲取扱法及射

表天受願ナリ

第六 教育実地期日及場所

日	行初	行分	場所	備考
十一月十日	旅行		東京——福岡	
十一月十一日	中	岩波行	福岡——熊本	
十一月十二日	指	導	西那軍教育隊 (熊本市外黒石)	
十一月十三日	指	導	熊本——岩川	
十一月十四日	指	導	後第百五五部隊 (岩川)	
十一月十五日	指	導	熊本志附道	
十一月十六日	指	導	熊本志附道	
十一月十七日	指	導	熊本志附道	
十一月十八日	指	導	熊本志附道	
十一月十九日	指	導	熊本志附道	
十一月二十日	指	導	熊本志附道	
十一月二十一日	指	導	熊本志附道	
十一月二十二日	指	導	熊本志附道	
十一月二十三日	指	導	熊本志附道	
十一月二十四日	指	導	熊本志附道	
十一月二十五日	指	導	熊本志附道	
十一月二十六日	指	導	熊本志附道	
十一月二十七日	指	導	熊本志附道	
十一月二十八日	指	導	熊本志附道	
十一月二十九日	指	導	熊本志附道	
十一月三十日	指	導	熊本志附道	

第七 指導受道ニ随行者
 随行者 佐藤 俊 中尉 田 登 一 男

附表第一

部隊保管火砲番號

積第一五〇五部隊	西部軍教育隊	部隊別
一	二	保管表
681 687 1166 1169 1227 1228 1229 1230 1584 1585 1586 1587	15 16	番號別
大阪陸軍造兵廠	大阪陸軍造兵廠	製造廠

附表第二

部隊保置火銃故障一覽表

故障	部	隊	保	置	火	銃	故障	一	覽	表
区	隊	第	一	隊	第	一	隊	第	一	隊
第	一	隊	第	一	隊	第	一	隊	第	一
第	一	隊	第	一	隊	第	一	隊	第	一

附表第二 部隊保管火銃故障一覽表

故障	分	總身	擊	鎖	擊	飛	機	防		照	準	具	脚				車輪	緩衝	防	指
								架	危				脚	脚	脚	脚				
銃尾止扣不動作	二																			
擊																				
擊																				
安全裝置不致																				
傳動環不致折損																				
可旋轉不具合																				
擊發不良																				
搖架支桿剋止折損																				
防危險結合不良																				
螺絲折損																				
止金折損																				
方向機不具合																				
跟鏡先端變形																				
分面筒不良																				
轉輪乙不良																				
額定架架動搖																				
脚結合不良																				
脚鉤拔穴無シ																				
脚鉤溝不良																				
脚鉤止板折損																				
車輪不行情離脫																				
緩衝板剋止折損																				
防折不正																				
防指口不具合																				

裏面白紙

附表第三

属品予備品不足状況一覽表

一 西部軍教育隊

区分名稱	定数	所要数	現在数	不足	区分名稱	定数	所要数	現在数	不足
板スバナ甲	一	二	〇	二	箱スバナ	一	二	〇	二
乙	一	二	〇	二	簿スバナ	一	二	〇	二
丙	一	二	〇	二	生球	一	二	〇	二
丁	一	二	〇	二	緊急環	一	二	〇	二
鈎スバナ	一	二	〇	二					

註一 定数ハ一門分ノ定数ヲ示シ所要数ハ保管火銃ニ要スル全数ヲ示ス

二 現在数ハ使用ノモノヲ除キ補給セラルタル数ヲ記載ス

三 積第一五一〇五部隊

二 藤才 五 五 部 隊

學 至 差 (<u>卷</u>)	學 至 竹 丸 座 至	櫻 桿 縛 草	洗 桿 縛 草	區 分 名 稱	定 數	所 要 數	現 在 數	不 足
一	二	一	二					
一 二	二 四	一 二	二 四					
一 四	一 九	四	一 三					
二	五	八	八					
學 至 差 (<u>卷</u>)	坐 金	緊 莖 環 (<u>乙</u>)	復 莖 竹 丸	區 分 名 稱	定 數	所 要 數	現 在 數	不 足
一	一	一	一					
一 二	一 二	一 二	一 二					
一 一	九	三	五					
一	三	九	七					

二 一五二五部

区分名稱	定数	所要数	現在数	不
洗機傳草	二	二四	一六	八
搜機傳草	一	二二	四	八
擊込ばね駆込	二	二四	一九	五
擊込ばね駆込	一	二二	一	二一
相筒子ばね	一	二二	一〇	二
止 栓	一	二二	二	二〇
衝動停止栓	一	二二	九	一三
撥彈用 コシ座金軸 要止金 ばね	一	二二	七	一五
止 桿 室	二	二四	一六	八
上金用ばね 及 逆釣及逆釣 ばね	一	二二	八	一四
撥彈用 軸ばね	一	二二	五	一七
方向止桿	一	二二	九	一三
開放準板	一	二二	一〇	一二
圧 筒	一	二二	九	一三
圧筒ばね	一	二二	九	一三
止栓及ばね	一	二二	一〇	一二
予備 ばね	一	二二	六	一六
割ピン	一〇	一三〇	一〇五	二五
脚尾環中ね	一	二二	一〇	一二
駐鋤止板	一	二二	九	一三
ばね	一	二二	九	一三
駐桿中ね	一	二二	八	一四
止ねじ及座金	二	二四	二	二二
割ピン	四	四八	二〇	二八
区分名稱	定数	所要数	現在数	不
復坐ばね	一	二二	五	一七
緊塞環(乙)	一	二二	三	一九
坐 金	一	二二	九	一三
シ 塞	一	二二	一	二一
注液孔塞環	一	二二	八	一四
圧塞環止	一	二二	一〇	一二
活塞桿用 ナット割ピン シ	二	二四	一四	一〇
復座節制用 ばね	二	二四	一	二三
塞環用	二	二四	四	二〇
接合用ナット 割ピン	一	二二	六	一六
緊 塞 環	二	二四	二	二二
革 環	三	三六	二三	一三
割筒座環	二	二四	一四	一〇
緊 塞 環	二	二四	二	二二
緊塞環	二	二四	一四	一〇
復座節制孔	一	二二	七	一五
板スパス(甲)	一	二二	七	一五
板スパス(乙)	一	二二	七	一五
同	一	二二	五	一七
鈎スパス	一	二二	三	一九
カニ目スパス	一	二二	六	一六
溝掛スパス	一	二二	六	一六
箱スパス	一	二二	六	一六
板スパス(丙)	一	二二	六	一六
同	一	二二	五	一七
脈鏡箱	一	二二	三	一九

裏面白紙

らうそく種	注油系(ス)用	栗室洗脚	ぐすり鉄弁	丁字ねじ廻	≒ハ。液 自在スバナ	注油系ニカ	断鉄器	十 煙通板を廻し	五 煙通板を廻し	爆管スバナ	爆管箱	額当	象限儀箱
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	六	六	六	〇	六	一	七	六	六	一〇	六
一	一	一	六	六	六	二	六	一	五	六	六	二	六
								直 洋具	至 球	ぐ フ て く	小 仕 上 短	入 鏡	編 斗
								一	一	一	一	一	一
								一	一	一	一	一	一
								四	〇	六	六	六	八
								八	一	六	六	六	四



